

1 教育方針

(1) 教育目標

一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう 一、視野を広め、豊かな事故の創造に努めよう 一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう

(2) 校訓 友愛、自由、平等、団結

2 学校経営

(1) 目指す学校像 知徳体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する学校

(2) 育成する生徒像 ①自ら学ぶ生徒 ②人間性豊かな生徒 ③心身を磨く逞しい生徒

(3) ありたい教職員像

子供たちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員

同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員

前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員



働き蜂 勤労
羽 根 勉学
胴 体 高等学校
山 型 友愛、自由、平等、団結

★ 評価はABCの3段階

A: 良い B: 概ね達成 C: 改善が必要

3 学校自己評価

	観点	重点目標		具体的方策	方策の評価指標	年度総括		○ 達成されたこと	項目	評価	資質能力の数値化への取り組み状況
						指標の結果	評価	▼ 改善を要すること			
	指導力向上	教務部	生徒の実態を把握し、個に応じた最適な学習の提供に向けて教材研究力を向上させ、授業を改善する	①生徒の授業アンケートを2回行う。 ②探究型授業や個別最適な学びに関する研究を進め、授業改善を進める。	アンケートの肯定的な回答が過半数。 各教科から授業研究の計画、実施報告を求める。	授業評価2回目は未実施だが、1回目アンケートでは、どの項目も肯定的な回答となっている。 各教科で授業研究・授業公開が実施された。	C	▼個別最適な学びや観点別評価についてはさらに研究を進め、授業改善を進めていく必要がある。	①	B	
		教務部	教科毎に、協働的な学びの充実、深い学びの実現に向け、ICT活用や体験型学習等の研究を進める(効果的な指導法の共有)	①教科毎にICTや地域資源の活用を含む補助教材の有効な活用を図る。 ②学習センターのAV機器等を適切に配置し、活用しやすい環境づくりを行う。	①生徒の授業評価で肯定的な回答が80%以上 ②学習センターを活用した授業数の増加	①各教科ともほとんどの項目で肯定的な回答が80%超 ②学セン利用状況 R5:151回 R6 ○○○回	B	○先生方のICT機器を活用した授業の取組みが進んできている。 ▼生徒がPCを情報処理ツールとして効果的に活用する授業の研究が必要			
		教務部	思考力・判断力・表現力を効果的に育むために、学習成果を発表する機会を積極的に提供するとともに、発表へ向けた指導を充実させる	発表する機会の紹介・周知を積極的に行う。 有望な生徒への声がけや指導を充実させる。	各種コンクールやコンテスト等への参加・出品数の調査	読書感想文の表現方法を選択制にして2年目。 多くの生徒が各種発表会やコンテストに挑戦した。	B	○各種読書感想文コンクールへ応募し、受賞することができた ○ビブリオバトル山形県大会に出場 ○公共図書館と連携し、読書活動の成果を外部に発信できた			
		情報デジタル部	校内のGIGAスクール構想の構築と運用を適切に進め、端末を活用したICT教育の研究を進める	①生徒教職員の端末の管理運用を適切に行う。 ②校内の情報機器の管理・更新など、利用しやすい環境づくりを行う。 ③職員への情報提供や研修を企画・実施する。 ④教務部、進路探究部との連携を密にする。	生徒・職員の評価 実態調査等の提出率(70%以上)		B	○適宜情報提供を行った。先生方には感謝申し上げます。 ○特別教室等7箇所にYELLが増設され、授業や探究活動での活用ができた。 ▼1年生への貸与やPC室の更新完了の時期がともに大幅に遅れた。関係する業者の問題もあり、県に改善を要望した。3学年返却時のご協力をお願いします。 ▼学年閉鎖に伴うリモート授業のための機器が整備されていない。			
	学力向上	進路探究部	授業・講習等の内容充実を図るとともに、ICT機器や学習支援ツールを活用し、「個別最適な学び」に基づく確かな学力を身に付けさせる	①探究型授業への改善を図りながら、平日講習や長期休業講習を実施して、進路希望が達成できる学力の確立を図る ②ICT機器や学習支援ツールの積極的な活用を図る	①模試の成績:各学年設定の目標偏差値以上 ②共通テスト受験率:90%以上 ③国公立大学合格者数:50名以上 ④MARCH合格者数:10名以上	①1月模試結果未返却 ②受験率89.4%(出願率91.9%) ③総合型・学校推薦型で16名合格 ④総合型・学校推薦型で5名	B	○共通テスト受験率はほぼ達成 完全型受験は文系54名・理系54名 ▼模試に向けた取り組みが足りない。生徒の学習時間を見る限り、厳しい結果になるだろう。模試分析会をふまえて、改善していきたい。	②	B	○(取り組んでいる)
		[3年]	進路目標達成に向けて学力を向上させる。進学先でも十分に対応していくことのできる学力を養成する。	放課後学習会、平日講習、夏冬期講習、二次対策講習について模試分析や生徒の実態に応じた内容を設定し、基礎力・応用力の定着を図る。	共通テスト得点率60%以上が40人以上 国公立大合格者数40名	得点率60%以上 23人。		▼基礎力の養成。			
		[2年]	進路目標を明確にしながら、学力を向上させる	①定期テスト前に学習会を実施する。 ②スタディサポートや模試の結果分析による教科指導の検討	1月進研模試でss50以上が80名以上 ss55以上が50名以上	結果待ち		○定期テスト前の学習会の実施 ▼家庭学習時間の確保			
		[1年]	確かな学力と探究的な学びの基礎力を身に付けさせる。	①考査前学習会や長期休業中時に講習を実施する。 ②スタディサポートや模試の結果分析による教科指導の検討。	1月進研模試でss55以上が50名以上	結果待ち		○各教科の対応や朝学習でもし対策に取り組んだ			

学習意欲	教務部	学びに向かう姿勢をより主体的なものにし、取組みの過程及び結果を意識させる	①自己の目標達成に向けての学習計画を立てさせる ②考査の目標点、目標評価を設定させる	自己評価をさせ、生徒による学校評価アンケートで、「達成できた」と6割以上の生徒が答えている	学校評価で、自己目標を「達成できた」「どちらかというと達成できた」とした生徒が1年:42.7%、2年:55.8%、3年:57.7%	C	▼3学年ともに自己評価を達成できたとする生徒の割合が低下している。生徒が達成感を得られるような目標設定や評価の方法を検討する必要がある。	③	B	○
	進路探究部	多様な他者と協働しながら郷土・地域の文化や課題について自ら探究的に学び、地域の振興や活性化に挑戦する力を育成する	生徒が学習や探究活動において得た知識を活用する場を提供し、多様な他者との交流を通して、地域の未来をひらくことにつながる学習活動を実施する	①自らが見つけた課題を探究し、発表することができる ②ルーブリックによる評価段階の向上	①授業評価 1,2学年ともに全項目で9割を超える生徒が肯定的に評価。 ②ルーブリック自己評価 1学期と3学期の指標を比較すると、生徒の自己評価が全指標で上昇。	B	○授業評価から、ほとんどの生徒が授業の意義を理解し、意欲的に授業に取り組んでいる様子が読み取れる。 ○ルーブリック自己評価から、ほとんどの生徒が探究活動を通して自らの資質能力が向上したと実感していることが読み取れる。 ▼総合探究が進路に及ぼす影響を生徒・保護者・教員の三者が共有していく方を進路探究部として立てていく必要がある。			
	[2年]	総合的な学習の時間における探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する。	探究活動で得た知識を活用する場を提供し、様々な交流を通して地域の未来につながる学習活動(校内外の体験学習など)を実践する。	①アンケートにおいて、探究活動で「意欲的に取り組めた」9割以上 ②12月の各グループによる発表会において、それぞれの生徒が以前より達成感を得られ、成長できたと実感できる。	①100% ②成長の跡が見られるようだ。	A	○グループ活動を通して、対話的な深い学びができた。			
	[1年]	総合的な学習の時間における探究型学習を通して探究心及び発信力を育成する	探究活動で得た知識を活用する。場を提供し、様々な交流を通して地域の未来につながる学習活動(校内外の体験学習など)を実践する。	①自らが見付けた課題を探究し、発表することができる。 ②アンケートの満足度の増加	積極的に活動に取組めた88.4%	B	○興味あるテーマを自ら設定し、班員と協力しながら情報収集や発表を行った			
習慣づくり 学習課題	教務部	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる	①授業がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる。 ②スタディサブリを有効活用し、個別最適な学習の提供及びその評価方法について研究を進める。	①生徒の授業評価、学校評価アンケートで「習慣がついた」回答が増えたか。 ②スタディサブリの利用状況とその成果との関連性について分析する。	①課題や予習復習を「毎日行っている」とした生徒の割合、 1年 R5:10.7%、R6 13.1% 2年 R5:6.7%、R6 7.7% 3年 R5:10.7%、R6 25.0%	C	▼家庭学習を習慣的に取り組ませるための工夫が必要 ▼スタディサブリの活用が教科によって差がある。有効活用についてさらに工夫が必要	④	C	○
	情報デジタル部	タブレット端末などを正しく安全に活用できる力を身につけさせる	生徒へのオリエンテーションなどにより、情報セキュリティやメディアリテラシーを身につけさせる。	生徒・職員の評価 情報Ⅰの授業評価		B	○1年生オリエンテーションを4月実施。 ○学年、生徒部や授業の中で随時情報リテラシー教育を実施した。 ▼生徒のタブレットの破損が多い。33件(内自然故障7件)※3年生の返却により増加が見込まれる。			
	生徒部	スマートフォンを便利なツールとして有効に正しく活用できる力を身につけさせる	生徒会・学級委員・自治委員を中心に、生徒が主体的に正しい利用につながる取組みを推進できるよう支援する。	学校評価(生徒版)でスマホ使用時間対年度始比10%削減との回答が6割以上	アンケート結果から、全学年で、大半の生徒が、以前と利用状況が変わらないと答えている。	C	▼スマホの利用時間が増加傾向にある。また、歩きスマホ、利用していけない場所、時間帯での利用が目立つ。指導の徹底が必要である。			
	[3年]	家庭での学習習慣を確立させ、主体的に学びに向かう生徒を育成する。	時間を可視化し学習時間を確保するための24時間の使い方を工夫させ、受験生に必要な学習時間を確保させる。	学習時間目標 (平日4時間、休日8時間) 定期的調査で確認	第1回調査4h以上11人、普通科平均117分。	B	▼家庭学習の習慣化	⑤	C	○
	[2年]	学習内容の一層の定着のために家庭学習の習慣化に取り組む	授業内容がより効果的に身につくように、学習への向き合い方について共に考え、家庭での学習時間を確保させる。	①家庭学習時間 平日3時間以上、休日4時間以上 ②週末課題提出における提出率70%以上	①1時間以内 ②国数英を中心に実施(ほぼ毎週実施)	C	▼課題への取り組み方や学習習慣の定着化にむけて継続的な働きかけが必要。			
	[1年]	家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる。	授業内容がより効果的に身につくよう、学習への取り組み方・向き合い方について共に考え、1日の学習時間を確保させる。	学習時間調査で平日の学習が2時間以上高い課題提出率の維持 課題未提出者の減少	平日の学習時間1時間に届かず、休日は1時間から2時間程度	C	▼家庭学習時間の確保がなかなかできない			

学習環境	教務部	読書に親しむ環境を整備し、書籍や情報を活用した探究的・主体的な学びを支援する	分掌、教科、学年との連携を密にして、生徒の興味・関心を考慮した図書館資料の充実を図る	学習センターの利用状況の調査 貸出状況の調査	貸出状況 R5:1,970冊 R6:〇〇〇冊 教職員の貸出冊数も増加	B	〇今年度も、こまつ書店や山形市立図書館と連携した活動ができた	⑥	B	△（取り組んでいない）
	総務部	危機管理や緊急時対応のマニュアルを再点検し、生徒が安全に学校生活を行える環境整備を図る。	①避難訓練(2回/年)を実施する。 ②施設安全点検を月に1回行い、校舎の危険箇所を早期に発見するとともに備蓄品の点検を行う。	学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上	A=19.7% B=56.4% C=14.0% D=9.9%	B	〇危機管理マニュアルの更新を行った。			
	総務部	学校生活における生徒・保護者の満足度を高めるために、食堂運営、弁当やパン販売等の充実を図る	①関係業者との綿密な情報交換を行う。 ②生徒や保護者の意見をフィードバックできるような取り組みを適宜実施する。	学校評価(生徒・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上		B	〇業者とも連携を綿密にとることができた。 ▼かがやき弁当の決済方法に生徒・職員ともに慣れず、未払いが発生するなど、スムーズにできなかった。 ▼生徒・保護者の意見・要望を吸い上げることがあまりできなかった。			
	情報デジタル部	校務用PC・タブレットや職員アカウントなどの情報に関する業務を適切に行う	ICT機器の管理と情報のセキュリティ管理を充実させる。 安全利用の啓蒙を行う。	職員の学校評価		A	〇アカウント更新を4/1に行うことで業務の効率化を図れた。今後も継続して行います。 〇一人1台PCの更新を適切に行った。			
	保健部	環境の美化に貢献できる公共心を育む	①丁寧な清掃活動 （男子トイレ小便器トラップ・黒板周辺・ベランダの強化） ②雑巾がけの徹底（毎週火曜日、複数回可） （砂・埃の拭き取り強化） ③生徒による清掃点検の実施 （生徒保健委員会環境整備班が毎月1回実施） ④ゴミの分別、持ち帰りの徹底 （生徒保健委員会による清掃時ゴミ集積所での点検・声かけ）	清掃点検のA評価80%以上 （前年度A評価:79.3% B:19.3% C:1.4%） ゴミ分別について回収業者等からの苦情件数5件以内	A=77.1% B=21.7% C= 1.2% 苦情件数0件	B	〇清掃については、1年を通してはA評価が80%に届かなかったが、2学期以降はほぼ80%と改善が見られた。 〇ゴミの持ち帰り、分別については概ね良好で、定着している。 ▼清掃分担区、清掃点検場所以外の美化意識の向上	⑦	B	〇
	[3年]	進路目標達成のための学習活動や探究活動ができる環境を提供し主体的な学びの意識を向上させる。	①放課後の学年棟を主体的学習空間として提供する。 「放課後サイレントスペース学習会」 ②総合型選抜学校と推薦型選抜につながる探究活動の充実	①放課後の学習空間活用生徒の増加 ②探究論文の提出100%	探究活動に積極的に取り組めた 85%。	B	▼放課後学習者は固定化。			
	[2年]	個に応じた最適な学習と協働的な学びの充実、深い学びの実現へ向けて、ICT機器を活用する。	①朝学習の時間を活用し、自ら学ぶ意欲を喚起する。 ②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める。	①欠点保持者を出さない ②欠・欠席者に対して学習機会を保障する	①クラスルームやスタサブの活用ができた。	B	〇国数英を中心に朝学習に取り組ませた。 〇学年閉鎖の3日間、クラスルーム・スタサブや模試の過去問に取り組ませた。			
	[2年]	身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる。	①心をこめて丁寧な清掃活動ができるよう指導する。 ②生徒一人ひとりが公共の空間であることを認識し、整理整頓に努めるよう指導する。	清掃点検で評価Aが90%以上	毎月Aが60～70%程度	C	▼教室の黒板の溝・コモンホールの下足箱の上の私物など			
	[1年]	生徒が本や新聞など、活字にふれる機会を提供するとともに、個に応じた最適な学習と協働的な学びの充実、深い学びの実現へ向けて、ICT機器を活用する。	①朝学習の時間を活用し、新聞記事を通して様々な話題に興味関心を持たせる。 ②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める。	①朝学習への遅刻0 ②生徒への図書平均貸出冊数を3冊以上に維持。 ③アンケートの肯定的回答の増加。	図書平均貸出冊数4.1冊 スタディサブリ活用＋評価70%	B	〇年間を通して図書を借りている生徒が10数名おり継続してほしい 〇朝学習は学年担任団が巡回しながら多くがまじめに取り組んでいる			
	[1年]	身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる。	①心を込めた丁寧な清掃活動ができるよう指導する。 ②生徒一人ひとりが公共の空間であることを認識し、整理整頓に努めるよう指導する。	清掃点検で、「清掃が徹底されている」のA評価が90%以上	A評価90%前後になっている	B	〇まじめに取り組む ▼移動が遅いなど責任感を持たせたい			
	進路探究部	多様化する入試に対応するために、確かな学力と探究型学習の必要性を理解させ、目標に向かう意識を醸成させる	①進路研修会を実施し、進路意識の高揚を図る ②オープンキャンパスへの積極的な参加を促す ③総合探究の成果を活用し、総合型選抜や学校推薦型選抜を積極的に受験する	①進路研修会のアンケート調査で肯定的な回答が8割以上 ②総合型選抜・学校推薦型選抜活用国公立大合格者20人以上	①1年:生徒65.3% 保護者95.7% 2年:生徒73.0% 保護者90.0% 3年:生徒76.9% 保護者96.1% ②1・2年生対象に夏季休業中、東北大オープンキャンパスへ参加 ③総合型・学校推薦型16名合格	B	〇国公立大学総合型出願6名、合格3名。 同学校推薦型は出願19名、合格13名。 〇コロナ禍以後、初めて借上げバスによるオープンキャンパス参加を企画 ▼国公立大学の総合型選抜等において求められる探究活動の実績や志望理由書のレベルはかなりハードルが高い。総合的な探究の時間の取組に教員が伴走することで、内容の充実を図っていく必要がある。			

目標設定	[3年]	第1志望合格に向け、多様化する試験に対応できる確かな学力と探究的な学びの意識を定着させる。	①受験についての情報を保護者と共有する ②進路ガイダンス・研修会を開催する ③2者面談・3者面談の充実	学校評価アンケートで、進路行事AB8割以上	進路行事は役に立った 77%。	A	○生徒・保護者の入試制度や入試対策の理解を深められた。	⑧	A	○
	[2年]	面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会を実施する。 ②大学等の外部の講座への参加を促進する。	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②志望理由書模試の受験率100%	①100% ②現在進行中	A	○外部の講師を招いて、進路について保護者・生徒に対して講演を開き、理解を深めてもらった。			
	[1年]	進路学習や研修会を通して進路意識を高める。	①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会・山形大学訪問を実施する。 ②大学等の外部の講座への参加を促進する。	①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 ②進路希望調査で志望大学、学部、学科を具体的に回答した生徒が増加	進路行事等＋評価65%	B	○進路希望がより具体的になった ▼ガイダンスや研修会への肯定的な回答を増やしたい			
基本的生活	生徒部	生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境づくりを推進する	①交通事故0(ゼロ)維持日数を掲示する ②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応をとる ③頭髮服装検査を定期的に実施する ④自転車点検および登下校時の安全指導の充実を図る	交通事故件数1桁。 特別指導事案発生件数前年度比50%減	交通事故件数18件	C	▼警察と連携して、交通事故0目指すとともに交通ルールの遵守の醸成を図る。	⑨	C	○
	保健部	互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する	①生徒・保護者・教員が健康相談にアクセスしやすい環境をつくる(年間計画で相談日を継続して27日に増やし、HPでもわかりやすくPRするとともに幅広い活用を図る) ②当該学年と保健部が連携し、特別な支援を要する生徒(学習支援を含む)へきめ細やかな対応をする	健康相談件数が増えることは、相談につながるスキルや健康に対する意識が向上していると捉えることができる。相談件数の増を「健康相談」活用力の向上としたい		B	○健康相談の数は増えてはいないが、相談以外での活用が複数あった。 ○重症化が心配される生徒は、学年と連携しながらSCや医療機関につなぐことができた。 ▼生徒や学年の状況に応じた役割分担ときめ細やかな対応			
	体育部	自己管理ができる生徒を育成する。	①学校を休まないで登校する。 ②文武両道を実践する。	①出席率99.0%	2学期 出席率 97.2%	C	▼1年97.8% ▼2年98.3% ▼3年95.4% 基本的な生活習慣の確立、自らの健康維持に努めること。3年生については、特別指導に係る自宅待機が出席率に影響したものと考えられる。			
	[3年]	基本的生活態度を身につけ、礼儀正しく、良識ある行動がとれる生徒を育成する。	①あいさつ、私物の管理について啓発する ②時間管理を指導する	①放課後、私物を机上に置いていない。 ②朝学習の定刻開始	①改善が見られた。 ②遅刻生徒は常習化。	A	○担任の継続的な指導。 ▼家庭の協力。			
	[2年]	基本的生活習慣を身につけ、礼儀正しく、主体的行動ができる集団づくりを推進する	①基本的生活習慣の呼びかけ ②人と接する時のマナー・エチケットなど意識させる。 ③自分の価値を守る力を身につける。	①日々の遅刻者3人以下 ②ルール違反生徒の絶無	①一部の生徒が遅刻常態化 ②生徒指導 2件	C	▼継続して、学年や担任で丁寧に指導を継続			
	[1年]	基本的生活態度を向上させる	①生活リズム(三点固定)の大切さを強調する ②学校や社会の規律の遵守を指導徹底する。 ③スマホの適切な使い方を繰り返し指導する。	①学習時間調査、アンケートにおける学習時間、睡眠時間の確保 ②特別指導案件0 ③違反によるスマホ預かり件数10件以内	特別指導案件 1	C	○学習時間調査を例年より多く実施している			

人間性豊かな生徒

集団づくり	生徒部	生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する	生徒会各種委員会の自発的活動を支援する	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	どの学年も80%のがしっかりとできいる。ある程度でいると回答している。	A		⑩	A	○
	[3年]	知・徳・体が調和し自他を認め合うことができる生徒を育成する。	①集団行動でのルールを尊重させる ②学校行事や生徒会活動への積極的参加を促す	①重大いじめ案件0件 ②学校評価アンケートで、行事への参加意識AB8割以上	学校行事で仲間意識、協同性を身に着けた 98%。	A	○文化祭でのクラス企画は居力して取り組めた。			
	[2年]	ボランティア活動や部活動、全校応援等の活動を通して「やりきる」「挑戦する」「思いやりの心」を育成する。	①各種競技の応援を通じて仲間を本気で応援ができるように「おもいやりの心」とワンチームの意識を高める。 ②感謝する心を育てる活動を呼びかける。	①いじめ案件0件 ②アンケート調査での肯定的回答が8割以上 ③アンケート調査での肯定的回答が8割以上	①5件 ②83.3% ③100%	B	○修学旅行・体育祭・文化祭でお互いに支えあう協力関係が生まれた。また、野球の全校応援やバレーボールで良い応援ができた。 ○いじめの申し出に対して、迅速に当該生徒と保護者に対応し、問題解決につなげた。			
	[1年]	ボランティア活動や部活動、全校応援等の活動を通して思いやる心、尊敬する心を育て連帯感を高めチーム山形中央として活動する。	①各種競技の応援を通じて仲間を本気で応援ができる心とワンチームの意識を高める。 ②他人の個性を認め、尊重しながら生活するよう指導する	①アンケート調査で肯定的回答が60%以上 ②重大いじめ案件 0件	仲間意識に関する＋評価95% 重大いじめ案件1件	C	▼スマートフォンでの画像流出に関するいじめ案件があった			
キャリア教育	進路探究部	知・徳・体の調和のとれた「地域の未来をひらく人材」を育成する	総合的な探究の時間を活用し、外部講師を招いての講演会や地域の大人と関わる機会を複数設けるとともに、進路に関するワークショップを実施する	総合的な探究の時間において実施する授業アンケートで肯定的な回答が8割以上	①授業アンケートのすべての質問項目において、9割以上の生徒から肯定的回答を得ている。 ②校外探究活動届の提出が過去最多の28件に上っている。 ③総務部と連携し、2月22日に外部講師を招き、総合探究と進路についての講演会を実施予定。	B	○①より生徒が探究活動の意義を理解して授業に臨んでいる様子がうかがえる。 ○②より外部と連携した探究活動が校内に定着していると評価できる。 ○③により、総合探究の意義を保護者に浸透させるとともに、授業への参加を促す。	⑪	B	○
	体育部	体育の授業を通して、スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する	①新教育課程に向けたシラバスを立案する。 ②体育授業の環境整備を行う。 ③担任・顧問による進路個別相談を実施する。 ④スポーツセミナーを実施する。	①シラバス作成 ②施設面の充実 ③進路指導の充実 ④キャリア育成の自己啓発	①指導と評価の一体化を踏まえてシラバスを整理することができた。 ②事務部と連携をとりながら、施設設備の充実が進んだ。 ③進路確定状況(確定73／未定1) ④スポーツセミナーではバリバリンピック車いすラグビー日本代表の橋本勝也氏による講演会を行い、自己の能力を最大まで高めるための心構えについて話を聞くことができた。	B	○事務部と連絡を密にしなが、必要な備品の購入や修繕を進めることができた。 ▼温水プールをはじめ、屋外体育施設については老朽化から安全性が担保できない状況に近づきつつある。 ▼今後益々進路実現に対する生徒の主体的な姿勢が求められる。自分の将来と真摯に向き合うことを早くから伝えていく必要がある。			
	[3年]	自ら探究的に粘り強く学び、将来の夢や目標と地域の振興や活性化に挑戦できる生徒を育成する。	早期に進路目標を確定させ、生徒が将来のビジョンを持ちながら進路実現に挑戦できるよう面談を実施する。	進路決定100%			○学校推薦型選抜の活用とその指導。			
	[2年]	社会と自分の関わり方を考えさせる。	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する。	アンケート調査での肯定的な回答が8割以上	QUテストの結果を活用。 進路研修会は2月予定					
	[1年]	社会と自分の関わり方を考えさせる。	各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する。	検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上	進路行事時期の適切さ＋評価95%	B				
	生徒部	豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する	各部にボランティア実施計画書・報告書を提出させ、具体的・実効的なボランティア活動の充実を図る。	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	部活動単位や執行部を中心にできている。	B	▼生徒会から全校生徒に積極的に呼びかける。県教委の案内するボランティア活動を積極的に推奨する。			
社会貢献	体育部	規範意識を持ち、協調性とおもいやりのある生徒を育成する	①各部でボランティア計画を作成する。 ②体育科集会を通じた規範意識を涵養する。	①ボランティアの実施状況 ②問題行動の件数	②問題行動 4件	C	○部活動単位での除雪など、ボランティア活動が実施されている。 ▼問題行動が4件発生した。例年、3年生は自分が競技から離れた2学期に問題を起こしてしまう傾向があるため、顧問による指導に偏らずに、スポーツ科全体で生徒を見守っていく体制を構築する必要がある。	⑫	C	△

地域連携 保護者連携	総務部	学校の魅力を校外へ発信できるようにする	①HPと学校パンフレットの充実を図り、学校の魅力を地域や小中学生に発信する。 ②PTAだより(年2回発行)を、今年度内に保護者(PTA理事)による作成に移行し、PTA活動の活性化を図ると共に、より保護者に向けた発信力のある内容にしてい	学校関係者評価委員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上	A=26.6% B=27.0% C=34.2% D=4.0%	C	○手続きを簡略化することにより、ホームページをよりリアルタイムに更新できるようになった。 ○PTAだより作成の保護者への移行を、第2号からスタートすることができた。	⑬	B	
	総務部	在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する	①奨学金制度を迅速かつ確実に案内・周知する。 ②奨学金の申込み対応を適切に進める。	奨学金制度案内についての保護者からの苦情0件	苦情0件	B				
	総務部	PTA活動を活性化し、学校や生徒と保護者の連携を深める	①登校時一声運動を実施し、学校の様子を保護者に見ていただき、あいさつの励行を行う。 ②中央祭でのPTA出店を、正式な会務として一層の充実を図り、保護者が生徒の活動に参画する機会、PTA活動が生徒に見える機会とする。	①一声運動参加80%以上 ②学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上	①79%	B	○中央祭PTA企画「親の店」は、本年度も大変盛況であった。保護者と生徒・教職員の交流や、参加保護者はもちろん来場者としての保護者との間でも親睦を深めることができた。			
	情報デジタル部	家庭と連携したICTの活用を行うとともに複数の情報ツールの連携の推進を行う	①さくら連絡網の生徒、保護者の運用 ②Chromebookの適切な利用・管理について啓蒙する。 ③職員への援助を適切に行う。	生徒・職員の評価 さくら連絡網の保護者登録率100%	利用者数852 (生:716, 教:136) 登録者数846 (生:715, 教:131)	A	○今年度よりPTA役員向けのグループを運用開始した。連絡網の登録率99.3%。家庭向けの案内など積極的に活用していただけている。メッセージ391件。アンケート3件。(1/15現在)			
	[3年]	学校と家庭の連携を図り、互いに協働しながら生徒の人格形成や進路実現に取り組む。	①学年通信やさくら連絡網等で家庭への情報発信をする。 ②保護者を対象とした進路研修会を開催する。	学校評価アンケートで、連携AB8割以上	情報共有、連絡できている 80%以上	A	○三者面談を早期に実施できた。	⑭	B	
	[2年]	学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める。	①学期ごとに「学年通信」を発行し、共育の姿勢をもてるようにする。 ②グーグルクラスルームを活用し、学年の魅力を発信する。	①PTA総会・進路研修会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	①28%(67人) ②生徒A:0% B:83% 保護者A:25% B:59%	C	▼①保護者の方々に関心を持ってもらえるように学年からの発信を工夫する。			
	[1年]	学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める	①学年便りを発行し、学校の様子を伝える ②HPへの掲載を充実させ、学年の魅力を発信する	①PTA総会出席率 70%以上 ②学校評価(生徒版、保護者版)AB 70%以上	学年PTA参加51%	B				

心身を磨く逞しい生徒

心身を磨く 逞しい生徒	学習時間	進路探究部	学習時間・学習スケジュールを自己管理できる生徒を育成する	学習時間調査を適宜実施・分析し、定期考査や模擬試験の結果との関連性を把握した上で、生徒の自律的な学習管理を支援する	平日の学習時間：学年＋1時間以上	各学年ともに学習時間不足 10月学習時間調査・週総時間数 1年：普通科533.9分(1日76分) スボ科59.6分(1日8分) 2年：普通科363.9分(1日52分) スボ科30.9分(1日4分)	C	▼授業や評価の改善、課題の在り方等を教科・学年で検討し、学習の習慣化を図っていく必要がある。	⑮	C	○
		[3年]	学習活動とスポーツ・文化活動を両立させるために必要な効果的な家庭学習の在り方について指導し、自立した生徒を育成する。	生徒面談や部顧問との連絡を密にし、生徒の学習状況、部活動への取り組み状況を把握し、文武両道の実践を図る。	平日学習時間4時間以上、休日8時間以上	学習と部活の両立できた 63%。人間力の向上が図れた 89%。	B				
		[1年]	家庭学習と隙間時間の使い方を工夫するよう指導し、学習時間の確保を目指す	学習時間調査による分析をもとに時間の使い方を指導する。	学習時間調査で平日の学習が2時間以上	学習時間1時間弱	C				
	健康管理	保健部	主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る	①健康診断を実施し、その後の有所見者に対するの受診を徹底する ②食または精神衛生に関する講演会を実施する ③コロナ禍で身につけた健康管理意識の継続を図る ④体育科職員や顧問と連携し、部活動での安全対策を行う ⑤「ほけんしつより」や保健委員会の掲示物での啓発活動を行う	①有所見者の受診状況の向上(昨年度：視力26.9% 歯科8.6%) ②講演会後のアンケート役に立つ90%以上(昨年度：85%以上) ③日常的な健康セルフチェック ④夏季の部活動での熱中症対策(毎活動日) ⑤年間8回以上「ほけんしつより」発行	①視力 32.1% 歯科 23.1% ②薬物 スポーツ科 92.8% 普通科 94.2%	B	○受診率は昨年度より向上が見られた。 ○体育科と連携し、薬物乱用防止教室を授業の中で行った。 ○「ほけんしつより」の他に適宜必要なお知らせを生徒・保護者に発信した。	⑯	B	○
		保健部	心身ともに明るく健康な生活を送れるように支援する	生徒保健委員会の研究活動を支援する ①健康や安全についての理解を深め、各自がそれぞれの心身の健康について見つめる機会とする。 ②具体的な対応について理解を深め、主体的に心身の健康管理をするための知識や力を養う。	研究過程で実施するアンケート調査の結果		B	○アンケート実施を通して、あまりなじみのない病気・症状への関心・理解につなげることができた。今後、具体的な対処法や環境づくりなどについて調査していく。			
		[3年]	生徒自ら安全・健康に留意し、主体的に健康管理ができるよう自己管理能力を育成する。	①進路実現や将来の社会生活に向けて、欠席が少なくなるよう健康管理を促す。 ②事故や怪我がないように健康観察による生徒の健康状態の把握する	①出席率99% ②交通事故0件	2学期 出席率96%。3年時皆出席33人。	B	▼生活リズム、体調管理の維持。			
		[2年]	健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする。意識を向上させる。	①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける。 ②事故や怪我がないように留意させる。 ③感染症対策の徹底させる。	①有所見者の受診率は歯科55%以上、視力55%以上 ②振興センター災害給付申請件数39件以下	①歯科21.7%、視力32.6% ②16件	C	▼生徒への声掛けを行いたい。			
		[1年]	健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする意識を向上させる。	①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける。 ②事故や怪我がないように留意させる。 ③感染症対策を徹底させる。	①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上 ②振興センター災害給付申請件数50件以下	受診率は目標を達成していない 災害給付申請31件	B	▼未受診の生徒に声掛けを行いたい			
	生徒会	生徒部	挨拶運動や全校応援を通して、山形中央高校への帰属意識の涵養を図る	①生徒会・学級委員会・自治委員会によるあいさつ運動を実施する ②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	アンケート結果により、約9割生徒がよくできている。ある程度できていると回答している	A	○体育祭、文化祭、野球応援などを通じて、チーム山形中央の一体感を味わうことができた。	⑰	B	○
	部活動	生徒部	部活動の指導を通して、競技力のみならず人間力の向上を図る	部活動目標シートの作成と掲示を行う	学校評価(生徒版)で6割以上が評価	アンケート結果により、約8割生徒がよくできている。ある程度できていると回答している。	A		⑱	A	○
		体育部	全国大会で勝負できる力を持った生徒を育成する	①各部の活動をより一層充実させる ②施設の整備(人工芝のグラウンド整備等)を推進する ③優秀な生徒を確保するための手立てを検討する	①県大会優勝数10 ②全国大会出場数150(団体5) (夏季100・冬季30) ③全国大会入賞数30(団体1)(夏季10・冬季20)	①県大会優勝数48(団体22・個人26) ②全国大会出場数(団体8競技) (夏季21・冬季未定) ③全国大会入賞数(団体0)(夏季5・冬季) ※いずれも1/20現在	C	○女子バスケットボールU18日本代表に宮林美優(3年)が選出された。 ▼全国的に競技力の私高公低の傾向が強まっている。本県もその傾向が年々強まろうとしている中、競技力の向上と指導者の育成を掲げる本校にとって今後のスポーツ科が目指す方向性を改めて明確にする必要がある。			

学 校 経 営	同 僚 性	管理職	協働的な働き方を推進し、同僚性を高める	①部長主任に働きかけ、分掌内で協働的な働き方を促進する ②退校時間が連日遅い職員に声掛けや面接を行い、業務の平準化が図れるよう部長主任と調整を行う	職員アンケートによる自己評価	業務の平準化60.0%→39.5% 同僚性の確立60.0%→63.2%	C	▼特定の教員に業務が集中しないよう、各分掌内での業務分担の見直しが必要。	⑲	C	
	専 門 性	管理職	教師に求められる指導力の向上を図る	①教員の指導力を向上させるために研究授業や校内研修会を実施する ②校外研修会に積極的に派遣し、幅広い情報を職員間で共有する	①ICT活用の校内研修会を3回行う。 ②職員アンケートによる自己評価	①ICT活用の研修会を1回実施した。 ②研修計画実施82.5%→81.6% 指導法工夫・改善82.5%→89.5%	B	〇ICTを活用した授業の指導改善が図られている。	⑳	B	
	健 康 管 理	管理職	職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する	①夏季特休・リフレッシュ特休・リフレッシュ年取得の推進、代休・振休の履行を徹底する ②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう ③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める	①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比 ②再検・精検100%の実施 ③一斉退校日の実施状況 ④年休5日以上取得者率88%以上(4月～12月)	①77.5%→84.2% ②46.7%→82.6% ③9回中4回 ④90.2%→80.4%	C	▼再検率100%を目指し、未受験者への声掛けを行う。 ▼年休取得環境をさらに整える。平均13.4日(R5 11.9日)	㉑	C	

学校関係者評価委員の方々からのいただいたご意見・ご提言・ご要望等

- ①学校関係者評価委員が学校の様子を見ることができる機会を設けてほしい。
- ②保護者あての文書が届いていないという問題がある。配布物の伝達方法の検討が必要ではないか。
- ③生徒へのアンケート結果で「本校に入学してよかった」という回答が多かったのはとても良い。
- ④学習時間が少ないという問題を、教員間で共有し対策をとるべきではないか。
- ⑤運動部を中心に活躍が目覚ましい。グラウンドの人工芝化やプールの修繕等を県に要望してはいかか。

いただきましたご意見・ご提言につきましては検討し、次年度の指導に活かしていきたいと考えております。ありがとうございました。